

# ピアノを弾こう!

## 教室訪問 PART 2

第11回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

### 限られた短い時間だからこそ、半歩でも前に進むレッスンを

今月は、奈良市内でピアノ教室を主宰する田中直子先生のレッスンを取材した。この日の生徒は、高2の棚瀬黎子さん。5歳からレッスンに通い始めた黎子さんが、京都府内に引っ越した現在も2週間に一度、田中先生のレッスンを受けている。

今月のピアノ教室 奈良市 田中直子ピアノ教室



5年ほど前に、自宅の建て替えを機に教室も一新。2台のグランドピアノを入れてなお余裕があるスペースだ。教室の外は裏山とあって、特別な防音仕様を施さなくても困らない恵まれた環境だ。近隣の生徒を中心に、講師の先生のレッスンも行っている。奈良県奈良市大和田町453-1 / 最寄り駅は、近鉄奈良線の「学園前駅」。連絡先は、田中☎090-3997-1141まで。



小さい頃から  
バッハが好きです

ふだんから「おしとやかなタイプ」の黎子さんの好きな作曲家はバッハ。「ペダルを使わず、クリアな音色で弾くのが好き」だそう。

### さあ、レッスンしましょっ!

今月の先生と生徒

田中直子先生

たなか・なおこ ●ヤマハのシステム講師を経て、大阪・なんばセンターとコウキ商事で、ヤマハのグレード(2~5級)講座の講師を担当しているほか、自宅のピアノ教室で週3回、幼児から10代の個人レッスンを行っている。PSTA西日本エリア講座スタッフ。

棚瀬黎子さん(高2)

5歳から田中先生の教室へ。現在は月2回のレッスン。「物事を深く考えて行動する。思慮深い」性格。口数は少ないが芯は強く、小さい頃から「実は弾きたい思いを貴く」タイプだった。高校では茶道部に所属している。



窓の向こうには裏山が広がる。近隣に気を遣うことなく、2台ピアノでも鳴らすことができる恵まれたレッスン環境だ。

田中直子先生のレッスン流儀  
レッスン曲はクラシックだけ。  
ポップスは家で自由に楽しもう

楽譜に忠実に弾いていた黎子さんのピアノが、田中先生のレッスンを受けるうちに、驚くほど感情豊かに雄弁な音色に変わっていった。

### クラシックの基本を徹底的に身につける

棚瀬黎子さんのレッスンは、「ハノン」を使った指慣らしから始まった。5分ほど弾いたあとは、ツェルニーの「40番練習曲」へ。この日のメイン・レッスンは、ショパンの人気曲である「スケルツォ第2番変ロ短調」だ。華麗なアルペジオと跳躍和音で有名な難曲をよみなく弾いていく黎子さんに合わせ、横に座って弾いたかと思えば、2台ピアノで合わせる。メロディに合わせて「ラ〜ララ〜」と歌う田中先生の声もどんどん大きくなっていく。「そこは一気に、佳境に!」  
そんなレッスンの様子を見ながら、「(黎子さんが)家で弾いている時と先生と合わせて弾くのでは、音が全然違います」と、黎子さんのお母さん。引っ越しで家が遠く



黎子さんが「卒業」した「ピアノスタディ」は、「その時々レベルに合わせて、ハーモニーやリズムなどの大事なポイントを取りこぼさなく教えることができるテキストです」



なってしまうため、レッスンの日は車で送り迎えをしている。  
改訂前の「ピアノスタディ」を“卒業”した黎子さんだが、田中先生が教えるのはクラシック曲のみ。ディズニーやジブリなどのポップスを取り上げることはない。「流行りの曲は、生徒さんも家で楽しみながら弾いていると思いますよ」と、田中先生。「本人が気持ちよく弾けることが一番。どんな曲でも

弾ける力をつけてあげたい」からこそ、クラシックの基礎をきちんと教えたいと話す。  
限られたレッスンの時間だからこそ、「半歩でも前に進めるように教えるのが自分の役目」。だから、田中先生は必ず「宿題」を出す。特に新しい曲では、宿題に取り組むきっかけの練習を必ず行うようにする。宿題をしてこなければ、そのレッスンは半歩うしろへ下が

バッハから現代曲までクラシックの楽譜がずらり。



ることにもなりかねない。「せっかくなのでレベルアップできるのに、そこで足踏みする時間をもったいない。一瞬、一瞬の時間を大事にします」